

白山市立蕪城小学校

校長だより

No. 12

令和7年度 10月30日



学校教育目標

自ら学び、心豊かで、たくましい児童の育成

～ みんなが元気 みんなで前進 ～

めざす児童像

「自ら考え、自ら学ぶ子」

「やさしく思いやりのある子」

「たくましい子」

後期に突入、実りの秋に！！

暑く厳しかった夏が終わり、秋の訪れを感じさせるキンモクセイの甘い香りが漂い始めた途端に、朝晩の冷え込みが強まり、秋が足早に過ぎ去っていく気配も感じられます。

さて、学校においても季節感があり、秋は4月から半年が過ぎ、前期から後期へと組織が変わっていくことを通して、高学年が新たに動き出す時期です。委員会活動に取り組む姿も顔ぶれが変わり、何か新鮮に思えます。今後も学校のために頑張ってもらいたいものです。

秋は昔から「〇〇の秋」と言われ、何かに取り組むには、よい季節です。学校では、先日「ペア読み聞かせ」があり、たてわりグループで読書を楽しみました。白山市では、「感性を豊かにする教育」を目指すための重点取組「はくさん3育」の一つとして、「読育（よみいく）」を推進しています。学校では、日頃から朝の読書、ボランティアの方々による読み聞かせ、家庭読書に加えて、図書委員会児童による「本の福袋」等の企画も行っています。その他にも、「味見読書」という取組にも挑戦しています。**「味見読書」は、短時間で本の冒頭部分を読むことを繰り返し、いろいろな種類の本に触れ、読書の幅を広げることを目的とした活動です。**普段あまり手に取ることのない本を読むことで、いろいろな種類の本に出会えるきっかけ作りになればと思います。今後実施学年を広げながら推進を図っていきます。



また、本校の今年度の学校経営目標には、児童に関する目標として「自ら考え、自ら学ぶ子」「やさしく思いやりのある子」「たくましい子」の3つが設定されています。現在行っている持久走旬間、来月に迫った持久走記録会は、**「たくましい子」**を育む方策の一つに位置付けられます。具体的には**「多少の困難にもくじけず、粘り強く最後までやり抜く子ども」「心身を鍛え、目標や記録に挑戦する子ども」の姿を求めています。**現在、持久走旬間であり、児童は体育の時間に5

分間走に取り組んでいます。疲れてきたら走り続けられるようにペースを落としたり、初めは抑え気味に走りながら後半余力があればペースを上げて力を出しきったり、自分が決めた目標周回数に向け、ひたすら頑張って走り続けたりする等、取り組み方はそれぞれですが、簡単に歩いたり、友達と話しながらゆっくり走っている児童はあまりいません。本で行われた「ぶじょっこ集会」において、校長から記録会に向けて、すぐ歩きたくなる「弱い自分」を説得して、「体の限界」に「心の限界」を近づけようと伝えました。「一生懸命はかっこいい」「全力でやり切ることには価値がある」という雰囲気が感じられる記録会になることを願っています。



持久走記録会

1. じぶんでペースをきめる
2. もくひょうをもつ
3. 「よわいじぶんを せつとく」

↓
こころもからだも
つよく、たくましく